『日本の伝統芸能と民族文化財を学ぶ 』

（玉田玉秀斎先生）

《１》 講座：第９回　講談

《２》 日時：2026(R08)年 01 月 14 日(水) 10 時~12 時

《３》 場所：茨木市クリエイトセンター

《４》 参加者　：受講生:27 名、CA:2 名

《５》 概要：9 回目は講談についての講義でした。

この講座は基本的には北見先生が講義をされますが、一度だけ「講談」の講義があります。　玉田先生が、パワーポイントなどは使用せずに簡単なレジメをもとにユーモアたっぷりにお話しをされました。

現在放映中の NHK 朝の連ドラ「ばけばけ」で怪談ばなしの指導をされた、との の興味深いエピソードを紹介された。（最後に詳述）

《６》 物語大国・日本。

① 日本では、「古事記」、「日本書紀」、「風土記」、「神社」に古くからの話（物語）が伝わっている。外国の場合、キリスト教が広まると、その土地のそれまでの伝承が廃れてしまうが、日本はそのような影響が少なかった。

② 神社には、古来の人々の力ではどうしようもなかった事象などが物語として残っている。コンビニは全国に５万店あるが、神社は神社本庁の管轄だけで８万社ある。（その他にも、神社本庁の管轄外の金毘羅山、鶴岡八幡宮などがある）

③ 安来節、たたら製鉄、北前船の寄港地として有名な島根県の安来には「月の輪神事」がある。一時途絶えたが、江戸時代に疫病がまん延して多くの死者がでた際に、何かを失ったためにこのような事態を引き起こしたのではないかと思いを巡らし、神事を復活させた事例もあり、今に伝わっている。

④ 玉田先生の師匠が参議院議員をされていた際に、アフリカ大使に講談を披露したところ、大変驚かれ、「そのような話は、アフリカでも奥地の部族の中にしか伝わっていない」とのこと。

⑤ ヨーロッパの「吟遊詩人」は、吟遊詩人だけでは食べていけず、副業をもっている。

《7》 落語・浪曲との違い

① 「落語」は、登場人物間の会話だけで進行するので、役になりきるために様々な芸事を習わなければならない。

② 「浪曲」は、音楽をともなう講談の発展形。華やかである。

≪8≫ 代表的な講談の演目

① 太閤記

② 難波戦記（真田幸村のはなし）。

③ 水戸黄門漫遊記

④ 赤穂浪士/銘々伝/外伝

⑤ 怪談

水戸黄門は江戸と水戸しか滞在したことがないが、講談では全国を漫遊したことになっている。このように講談では話が盛られることがある。しかし、盛られた物語を日本人が長年にわたり愛したからこそ、今に伝わっているのであろう。

≪9≫ 講談の主な一門

① 江戸

・一龍齋（音楽に例えると、「クラッシック」）：伝統を重んじる

・神田 （音楽に例えると、「ポピュラー」）

・宝井 （音楽に例えると、「ロック：現在のビートルズ」）

・田辺 （音楽に例えると、「ジャズ」）：講談師「ヒゲの一鶴」が有名

② 上方

・旭堂 （音楽に例えると、「演歌」）

・玉田 （音楽に例えると、「現代音楽」）

講談師は全国で 100 名くらい。 講談師は女性が多く、あと 50 年もすると女性ばかりになるのでは、と噂されていたが、神田伯山というスーパースターが登場して男性も盛り返しつつある。

≪10≫ 玉田家の特色

① 神道講釈　玉田永教

・その土地の物語（住んでいる人が良かったと思えるような話）

② 菅原道真天神記、安倍晴明伝

・人が神になった物語

③ ヒーロー忍者、猿飛佐助、雲隠才蔵、真田十勇士

・これらは、玉田家が作成したお話し

≪11≫ 講談の基礎

「修羅場読み」として「宇治川の一番渡り」を皆で３回練習した。

「修羅場読み」のポイントとして

・大きな声、・息長く、・大きな波を描く、・息切れの間際が勝負

・「一番、一番」などと同じ言葉が続く際には、「いちばん、いちばん」と同じ調子ではなく、「いちばん、いちば～～ん」と調子を変えて話をする。（このことは講談のみならず、歌舞伎などでも行われている）

≪12≫ 終わりに

① NHK 朝の連ドラ「ばけばけ」の怪談ばなしの指導。

主演女優で、松野トキ役の高石あかりさんに怪談ばなしの指導を行ったところ、なんと 1 回でマスターした。役では素人が怪談をたどたどしく語らねばならないのに、むしろ上手すぎて、プロデューサーから玉田さんに教えてもらったことは全て忘れなさい、との声がかかった。　さすがに主要なドラマの主人公を務める女優さんは資質が高い、と驚いた次第。

② CA さんから　来季の ONCC 教室で空きのある講座の紹介がありました。

③ 本ブログの写真の一部は、CA の K 様よりご提供いただきました。

（ブログ担当：5 班 i）